

総務教育常任委員会資料

(平成22年11月25日)

【件名】

- 1 第3回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について
(教育環境課・文化財課) …… 1
- 2 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について(教育環境課) …… 3
- 3 平成23年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験第一次選考試験の
採点ミスについて(小中学校課・高等学校課・特別支援教育課) …… 4
- 4 県立高等学校専攻科について(高等学校課) …… 6
- 5 平成23年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況(10月末現在)について
(高等学校課) …… 7
- 6 県内文化財建造物の国新規指定等について(文化財課) …… 8
- 7 第65回国民体育大会における鳥取県選手団の成績について
(スポーツ健康教育課) …… 12

教育委員会

第3回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について

平成22年11月25日
教育環境課・文化財課

第3回鳥取西高等学校整備のあり方検討会を下記のとおり開催した。

1 日時等

日 時：平成22年11月9日（火）午後2時～4時まで

場 所：県庁 議会棟 特別会議室

出席者：検討会委員10名

オブザーバー 文化庁文化財部記念物課 佐藤主任文化財調査官

2 概要

- ・第2回に示した大まかな今後の方向性を踏まえ、課題や問題点を認識しやすくするための具体的な整備方法を提示し、意見交換を行った。

3 主な意見等

【文化庁主任文化財調査官】

- 文化庁が現行案を許可できないのは、第2グラウンドにアリーナ建設ができないだけでなく、全体計画の見直しが必要だということである。
- 当初、第2グラウンドは、史跡指定地外だったため、建物の一部を移す計画を進めた経緯があるが、発掘調査の結果、絵図で断片的にしかわからなかった粉蔵跡が、良好な遺構として現れ、史跡の追加指定をし、一体的に保存・整備すべきと判断するに至った。
- できるだけ早く、本来的な保存管理、整備活用の状態に持っていきたいのが文化庁としての考えである。
- 本来移転が望ましいが、移転地の問題や生徒の安全対策が緊急の課題であることから、選択肢として耐震改修もありうるが、いずれにしても移転が前提である。
- 全面的な改築は、文化庁の許可は不可能である。文化庁としては、将来的な移転計画を立て、移転してもらいたい。移転は努力目標ではない。

【学識経験者】

- 移転先を探す取組みは必要だが、当面の対策として、耐震改修案のうち可能なものを選択し、移転することを明記して、議論を進めてはどうか。
- 全面改築案を文化庁にぶつけるというのも難しいだろうし、今から移転計画を作成すると時間もかかり過ぎるので、とりあえず耐震改修案の中で実現できるものを考えてはどうか。
- 教育と史跡が歩み寄った折衷案のようなものがないものか。
- 財政面を考えると耐震改修を行いながら、街・史跡・学校それぞれのあり方を偏った見方ではなく、広い視野で考えていくのがよいのではないか。
- 人の命、安全性が最優先と思うが、耐震改修で許可を得るとしても、移転についてもある程度現実的な議論をしていくことが必要だと思う。

【学校関係者】

- 県の文化財保護審議会の要望書が出る前と出た後で文化庁の指導が随分変わったように思う。第2グラウンドの発掘調査結果で、文化庁の見解が劇的に異なってきたのは納得がいかない。地域主権の時代でもあり、県と市が共に地域の発展を目指して取り組んでいることを文化庁にも理解してほしい。
- 文化財保護の観点が議論の中心となっているが、文化財に限らず、法の精神と現実の運用は違うものだと思う。中心市街地の中核施設であり、将来の鳥取県を担う人材を育てる場所であり、現実の運用を考えてほしい。教育環境の改善、安全確保の面にも配慮した議論をしてほしい。
- 鳥取市の大手筋の整備により、緊急車両が入る通路が1本になってしまうのは不安である。学校は安全が第一なので、考えていただきたい。
- 法律上、100%だめなものはないので、配慮をお願いしたい。また、文化庁に現行案で申請して、不許可の理由をもらわないと議会とか行政の責任が厳しく問われるのではないか。
- 主任文化財調査官は、改築案が許可される可能性を否定されたが、文化庁に申請書を提出し、不許可理由を明確にし、その中で活路を見出していくべきではないか。

【鳥取市】

- 城跡として全体が保存されることに価値があるという文化庁の考え方は理解できる。
- 鳥取市としては、市の史跡整備計画も活かされる耐震改修でやむを得ないと考える。

4 今後の予定

- ・他県の事例調査、視察
- ・より幅広い選択肢を踏まえた整備の方向性の検討

5 検討会委員(11名)

▼学識経験者

- 池本 百代【鳥取女性中央会幹事、まちづくりレディース鳥取会長】
- 岡田 昭明【鳥取大学名誉教授、県文化財保護審議会会長】
- 坂出 徹【鳥取商工会議所専務理事】
- 錦織 勤【鳥取大学教授、県文化保護審議会部会長】
- 濱田由紀子【鳥取県弁護士会副会長】
- 東樋口 護【鳥取環境大学副学長】(欠席)
- 道上 正規【(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長】(座長)

▼学校関係者

- 青木 節也【鳥取西高等学校校長】
- 池内 勝彦【鳥取西高等学校PTA会長、同窓会副会長】
- 松下栄一郎【鳥取西高等学校同窓会副会長】

▼鳥取市

- 楮原 伸一【鳥取市教育委員会事務局次長】

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

【変更分】		教育環境課				
工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	摘要
県立倉吉農業高等学校教室棟耐震改修工事	倉吉市大谷	馬野建設株式会社	契約金額 99,225,000円を 110,500,950円 (11,275,950円増 額)に改める。	平成22年3月29日～ 平成22年11月15日 (変更なし)	平成22年11月4日 (第1回変更)	(変更理由) 老朽化の著しい外壁のク ラック補修等の追加を行 ったため。
県立倉吉農業高等学校祥雲寮耐震改修工事(建築・電気設備)	倉吉市大谷	有限会社向井組	契約金額 151,410,000円を 163,119,600円 (11,709,600円増 額)に改める。	平成22年3月16日～ 平成22年11月30日 (変更なし)	平成22年11月1日 (第1回変更)	(変更理由) 老朽化の著しい外壁のク ラック補修等の追加を行 ったため。
県立倉吉農業高等学校第二体育館耐震改修工事(建築・電気設備)	倉吉市大谷	有限会社酒井建設	契約金額 105,000,000円を 108,361,050円 (3,361,050円増 額)に改める。	平成22年3月25日～ 平成22年11月15日 (変更なし)	平成22年10月18日 (第1回変更)	(変更理由) 柱脚の補強、雨樋い新 設等の追加を行ったた め。
県立倉吉総合産業高等学校柔剣道場耐震改修工事(建築)	倉吉市小田	有限会社石賀工務店	契約金額 108,360,000円を 114,189,600円 (5,829,600円増 額)に改める。	平成22年3月19日～ 平成22年12月10日 (変更前：平成22年 10月29日まで)	平成22年10月22日 (第1回変更)	(変更理由) 耐震補強部材の追加、バ スケットゴール支持台の 取替等の追加を行ったた め。
県立米子高等学校体育館・記念館耐震改修工事(建築)	米子市橋本	株式会社岩崎組	契約金額 116,235,000円を 116,866,050円 (631,050円増 額)に改める。	平成22年3月24日～ 平成22年11月30日 (変更なし)	平成22年9月16日 (第1回変更)	(変更理由) 腐食が著しい既存鉄骨 柱の補強等の追加を行 ったため。
			契約金額 116,866,050円を 120,456,000円 (3,589,950円増 額)に改める。	平成22年3月24日～ 平成22年11月30日 (変更なし)	平成22年11月15日 (第2回変更)	(変更理由) 腐食が著しい体育館の 内装・外装の補修等の 追加を行ったため。

平成23年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験第一次選考試験の採点ミスについて

平成22年11月25日
小中学校課
高等学校課
特別支援教育課

1 第一次選考試験（一般教養・教職教養試験及び専門試験）の採点ミス

(1) 採点ミスの概要

ア 経過

- ・受験者から、採用試験に関する開示請求があり、当該受験者の解答用紙等を再確認する中で、一般教養・教職教養試験において採点ミスを発見。
- ・小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭のすべての受験者の解答用紙（一般教養・教職教養試験及び専門試験）を再確認したところ、その他にも採点ミスがあることを確認。

イ 採点ミスのあった人数等 別紙のとおり

ウ 採点ミスが発生した原因

- ・採用試験の透明性、公平性を高めるために行った、各試験項目ごとの個人の得点通知など改善の取組を行った結果、従来よりもタイトなスケジュールで採点業務を行ったこと。
- ・昨年度から複数の者が1枚の答案用紙に関わるとともに、迅速な業務を行うために作業の進行状況によって分担を変更したことで、責任の所在が不明確になったこと。

→ 結果的にチェック体制が十分機能していなかった。

(2) 合否結果への影響

修正後の得点を判定資料に反映させて再集計した結果、採点ミスによる一次試験の合否結果に影響はなかった。

(3) 修正結果の通知等

採点ミスのあった受験者に対して修正後の得点結果を通知するとともに、教育委員会のホームページにその旨を掲載。

(4) その他

文書規程に2年間の保存期間を定めている平成22年度教員採用選考試験の答案についても併せて点検したが、一次試験及び二次試験の合否結果に影響はなかった。

2 関係職員の処分

(1) 処分対象者

平成23年度及び平成22年度教員採用候補者選考試験の作業に関係した職員

(2) 処分者数及び処分内容

文書訓告9名 口頭嚴重注意11名 合計20名

3 再発防止に向けた今後の対応

来年度以降の採用試験において、以下の改善策を講じる。

- ・採点時における点検回数及び点検段階における点検者数を増やすなどの確認体制の強化。
- ・試験日程を見直すなど、採点業務にかける時間の十分な確保。
- ・採点者及び点検者の責任の所在の明確化 等

平成23年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験
第一次選考試験における採点ミス人数一覧

1 採点ミスのあった人数等

校種・教科等	受験者数	一般教養・教職教養 試験採点ミス人数	専門試験 採点ミス人数	
小学校	305	15	国語	8
			社会	7
			数学	2
			理科	1
中学校・国語	50	3	10	
中学校・社会	83	7	8	
中学校・数学	50	5	2	
中学校・理科	48	2	8	
中学校・音楽	22	1	0	
中学校・美術	19	0	0	
中学校・技術	3	1	0	
中学校・家庭	20	3	3	
中学校・保健体育	41	5	2	
中学校・英語	64	10	5	
高等学校	98	0	0	
特別支援学校	100	8	5	
養護教諭	49	9	2	
計	952	69	63	

2 採点ミスの内容

○一般教養・教職教養問題に関する採点ミスの例

・「one of the most famous coastal dunes in Japan.」と解答すべき問題で、文中の coastal の綴りが costal で正答となっていた。

・「グリーン購入」と解答すべき問題で、「グリーン講入」と書いて正答となっていた。

・「教育公務員特例法」と解答すべき問題で、「教員公務員特例法」と書いて正答となっていた。

○専門試験問題に関する採点ミスの例

・「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。」と書くべき古文の問題で、文中の「あらまほしき」を「あらましき」と書いて正答となっていた。【小学校・国語】

・「テーマ」という語句を必ず用いて、ディベートという話し合いの形式を説明する問題で、「テーマ」を使わずに「話題」を使って説明したものを正答としていた。【中学校・国語】

・「最低限度」と書くべき憲法に関する問題で、「最底限度」と書いて正答となっていた。【中学校・社会】

○その他

・得点計算を誤っていた。

県立高等学校専攻科について

平成22年11月25日
高等学校課

県立高等学校の専攻科について、平成22年11月16日定例教育委員会において、次のとおり議決した。

学 校 名	方 針
倉吉東高等学校 米子東高等学校	左記県立高等学校の専攻科は、平成24年度末をもって廃止とする。

<参考> 平成23年度入学者選抜スケジュール（予定）

平成22年12月	教育委員会 専攻科入学者選抜実施要項 議決 議決後 県公報にて告示
12月下旬	県内各高等学校（公立・私立）へ実施要項の通知 県立高等学校専攻科入学者選抜実施細則を定め、 専攻科設置高等学校に通知
平成23年 2月中旬～下旬	専攻科設置高等学校において募集要項を定め、 各高等学校に送付
4月上旬	出願受付、学力検査
4月中旬	合格発表

平成23年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（10月末現在）について

平成22年11月25日

高等学校課

1 厚生労働省の基準による調査

全日制高等学校、定時制高等学校、特別支援学校高等部及び米子北高等学校看護専攻科において、平成23年3月卒業予定者のうち公共職業安定所または学校を通して求職している者のみを対象とした調査。

(1) 求職者の状況

- ・求職者数は1,172人で、前年同期に比べ1.7%、実数で20人の増加。
- ・卒業予定者に占める求職者の割合(就職希望率)は20.8%で、前年同期に比べ0.5ポイントの上昇。

年月	卒業予定者(人)			求職者数(人)			就職希望率(%)		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
平成22年10月末	5,642	2,866	2,776	1,172	662	510	20.8	23.1	18.4
平成21年10月末	5,670	2,882	2,788	1,152	640	512	20.3	22.2	18.4
平成22年3月末	5,634	2,869	2,765	1,015	572	443	18.0	19.9	16.0

- ・県内就職を希望する求職者は903人で、前年同期に比べ2.0%、実数で18人の増加。
- ・求職者全数に占める県内就職を希望する求職者の割合は77.0%で、前年同期に比べ0.2ポイントの上昇。

年月	県内就職を希望する求職者(人)				県内就職希望率(%)			
	計	東部	中部	西部	計	東部	中部	西部
平成22年10月末	903	314	167	422	77.0	83.3	75.6	73.5
平成21年10月末	885	337	159	389	76.8	79.3	77.9	74.4
平成22年3月末	785	291	145	349	77.3	79.1	76.3	76.4

(2) 求人状況

- ・県内求人数は674人で、前年同期に比べ15.8%、実数で92人の増加。
- ・県内求人の求人倍率は0.58倍で、前年同期に比べ0.07ポイントの上昇。
- ・県外からの連絡求人は前年同期に比べ14.0%、実数で55人の大幅な減少。

【参考】

年月	県内求人数(人)	求人倍率(倍)	県外からの連絡求人の求人倍率(倍)		
			県外からの連絡求人数(人)	県内就職希望者の求人倍率(倍)	県外就職希望者の求人倍率(倍)
平成22年10月末	674	0.58	339	0.75	1.26
平成21年10月末	582	0.51	394	0.66	1.48
平成22年3月末	848	0.84	401	1.08	1.74

* 求人倍率は、県内求人数を求職者全数で割ったもの。

県内就職希望者の求人倍率は、県内求人数を県内就職を希望する求職者数で割ったもの。

(3) 就職内定者の状況

- ・就職内定者数は650人で、前年同期に比べ5.5%、実数で34人の増加。
- ・就職内定率は55.5%で、前年同期に比べ2.0ポイントの上昇。

年月	就職内定者数(人)				就職内定率(%)			
	計	東部	中部	西部	計	東部	中部	西部
平成22年10月末	650	187	141	322	55.5	49.6	63.8	56.1
平成21年10月末	616	198	119	299	53.5	46.6	58.3	57.2
平成22年3月末	985	355	185	445	97.0	96.5	97.4	97.4

- ・県内就職を希望する求職者の就職内定率は49.8%で、前年同期に比べ0.9ポイントの上昇。

年月	県内・県外別、地域別就職内定率(%)											
	計	県内		東部		中部		西部		県外		
平成22年10月末	55.5	49.8	74.3	49.6	45.5	69.8	63.8	58.1	81.5	56.1	49.8	73.7
平成21年10月末	53.5	48.9	68.5	46.6	41.2	67.0	58.3	52.8	77.8	57.2	54.0	66.4
平成22年3月末	97.0	96.2	100.0	96.5	95.5	100.0	97.4	96.6	100.0	97.4	96.6	100.0

【参考】求職者数(県内・県外)の推移

年月	求職者数(人)			求職者の構成比(%)	
	計	県内	県外	県内	県外
平成22年10月末	1,172	903	269	77.0	23.0
平成21年10月末	1,152	885	267	76.8	23.2
平成20年10月末	1,361	1,031	330	75.8	24.2
平成19年10月末	1,344	1,070	274	79.6	20.4

上記のデータは、鳥取労働局職業安定部による

県内文化財建造物の国新規指定等について

平成22年11月25日
文化財課

平成22年10月15日に、国の文化審議会（会長 西原 鈴子）から文部科学大臣に下記の文化財を新規指定・追加選定するよう答申されました。

記

1 重要文化財（建造物）に新たに指定される文化財

名称	河本家住宅（かわもとけじゅうたく）
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町笹津
指定物件	主屋、離れ、味噌蔵及び米蔵、新蔵、土蔵 計5棟 宅地 6,325.47㎡ 附 ^{つたり} 門及び納屋、米蔵、大工小屋 計3棟 家相図 1枚
所有者	河本雅通

概要

河本家は尼子氏の家臣を祖とすると伝わり、代々大庄屋などの要職を務めた。当家住宅は茅葺の主屋を中心に付属屋が多く残され、近世の大庄屋の屋敷構えを良く伝える。

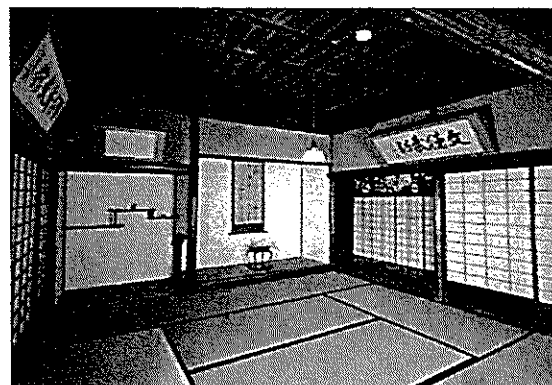
主屋は、大きな土間と四室を中心に構成された居室部に、ヒカエノマを介して接続する客間部から成る。客間部の座敷は面皮材を多用し、透彫の欄間を入れるなど洗練された数寄屋風意匠をもつ。また、主体部の寄棟の屋根や、棟石を載せる点は、当地方の特徴を良く示している。

この主屋からは貞享5年（1688）の棟札が確認されており、建築年代の明らかな民家としては山陰地方最古の例として、高い価値が認められる。

なお、主屋は現在、県指定保護文化財に指定（昭和49年）されているが、重要文化財指定後は、県指定は解除される。



河本家住宅 主屋



河本家住宅 客間部

○ 今回、国で答申が行われた重要文化財（建造物）の概要

	現在の件数	今回の答申件数	指定後の件数
国宝・重要文化財 （建造物）	2, 367件 （4, 363棟）	10件 （うち2件追加指定、 1件国宝指定）	2, 374件 （4, 404棟）

○ 鳥取県の国指定文化財（建造物）、県指定保護文化財（建造物）数（今回指定後）

国指定文化財（建造物）	県指定保護文化財（建造物）	計
17件	19件（河本家指定解除後）	36件

○ 県内の国指定文化財（建造物）

国宝・重文別	名称	所在地	指定年月日
国宝	三仏寺奥院(投入堂)	三朝町	昭和27年3月29日 (明治37年2月18日)
重文	禊谿神社	鳥取市	昭和27年7月19日
重文	不動院岩屋堂	若桜町	昭和28年11月14日
重文	三仏寺納経堂	三朝町	昭和32年2月19日 (明治37年2月18日)
重文	三仏寺地藏堂	三朝町	昭和32年2月19日 (明治37年2月18日)
重文	三仏寺文殊堂	三朝町	昭和32年2月19日 (明治37年2月18日)
重文	大山寺阿弥陀堂	大山町	昭和32年2月19日 (明治37年2月18日)
重文	仁風閣	鳥取市	昭和48年6月2日
重文	福田家住宅	鳥取市	昭和49年2月5日
重文	後藤家住宅	米子市	昭和49年2月5日
重文	矢部家住宅	八頭町	昭和49年2月5日
重文	門脇家住宅	大山町	昭和49年2月5日
重文	長谷寺本堂内厨子	倉吉市	昭和63年12月19日
重文	大神山神社奥宮	大山町	昭和63年12月19日
重文	旧美敷水源地水道施設	鳥取市	平成19年6月18日
重文	石谷家住宅	智頭町	平成21年12月8日
重文	河本家住宅	琴浦町	

II 重要伝統的建造物群保存地区に追加選定される文化財

名称 倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区

約4.5ヘクタール（計 約9.2ヘクタール）

所在地 鳥取県倉吉市研屋町、魚町、東仲町、西仲町及び西町の全域並びに堺町1丁目、新町1丁目、新町2丁目及び新町3丁目の各一部

概要

倉吉市打吹玉川地区は、江戸時代から明治・大正期にかけて商工業都市として繁栄し、伝統的建造物が密度濃く残ることから、平成10年度に約4.7ヘクタールが重伝建に選定されている。当時から伝建地区から延びる本町通りの西側地区にも伝統的建造物が多く残ることが知られていたが、アーケードの架かる商店街であり、保存地区とすることが見送られた。しかし平成19年度にアーケードが撤去されて改めて調査を行った結果、現在も伝統的建造物がよく保存されている事が確認され、この度、地区拡大となった。

拡大地区は既選定地区と同様に、赤褐色の石州瓦を主とする、多様で質の高い意匠を持つ町家が並ぶ本町通りの景観と、土蔵群と石橋が連続する玉川沿いの景観から構成され、拡大された地区を含む全体として、特色ある歴史的景観を良く伝えている。

○今回、国で答申が行われる重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）の概要

	現在の件数	今回の答申件数	指定後の件数
重要伝統的建造物群保存地区	87地区	2地区 (うち1地区追加選定)	88地区

○鳥取県の伝統的建造物群保存地区の数

国選定 重要伝統的建造物 群保存地区	県選定 伝統的建造物群保存 地区	計	[参考] 伝建調査を行った地区
※1地区 (倉吉市打吹玉 川)	1地区 (智頭町板井原)	2地区	1地区 (大山町所子)

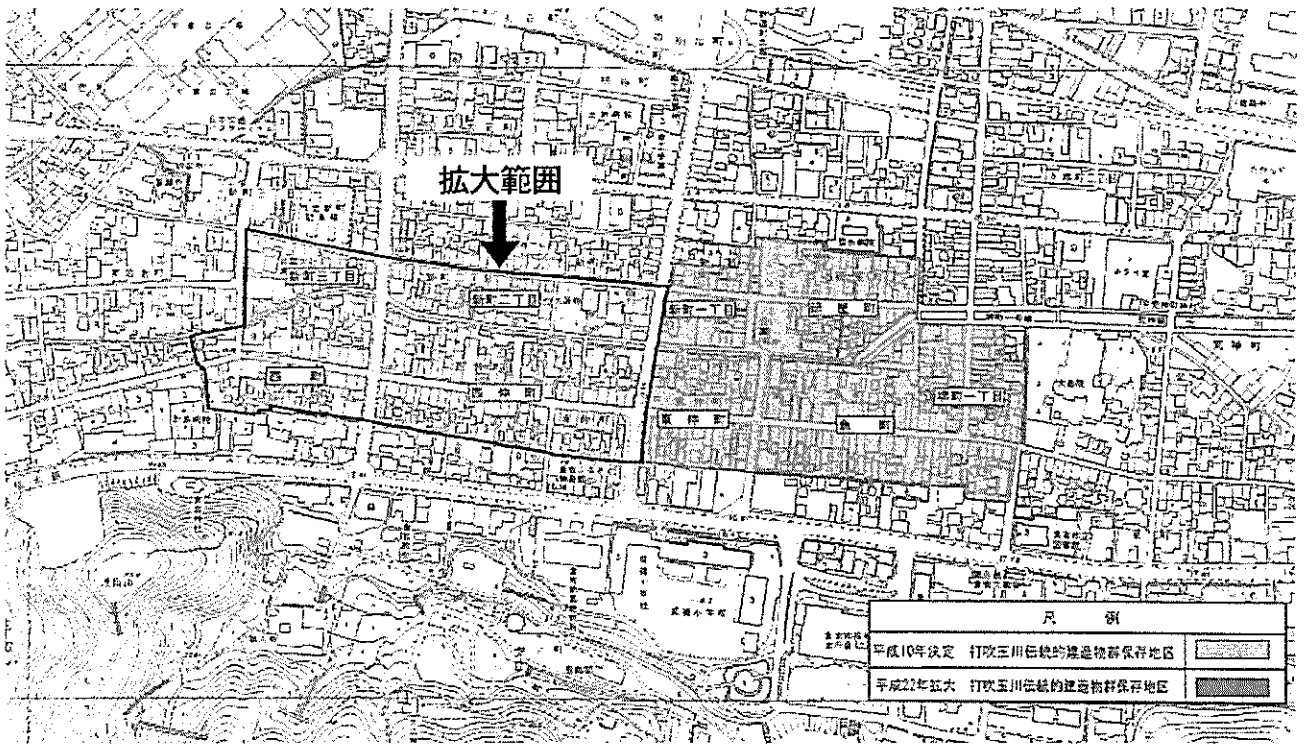
※ この度は追加選定のため、地区数は1地区のまま



拡大地区 本町通り沿いの景観
(倉吉市教育委員会提供)



拡大地区 玉川沿いの景観



伝統的建造物群保存地区の拡大範囲 (倉吉市教育委員会作成図をもとに一部加筆)

第65回国民体育大会における鳥取県選手団の成績について

平成22年11月25日

スポーツ健康教育課

男女総合成績（天皇杯） 46位 得点629.5点

女子総合成績（皇后杯） 42位 得点382点

季別	No.	競 技 名	天皇杯得点及び順位			皇后杯得点及び順位		
			参加得点	競技得点	合計得点	参加得点	競技得点	合計得点
冬 季	1	スケート スピード フィギュ	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	2	アイスホッケー	10	0 (0)	10	—	—	—
	3	スキー アルペン クロス ジャンプ	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
			10	0 (0)		10	0 (0)	
			10	0 (0)		10	0 (0)	
冬 季 小 計			30 (30)	0 (0)	30 (30)	20 (20)	0 (0)	20 (20)
順 位			3 2 位 (3 3 位)			2 5 位 (2 6 位)		
本 大 会	1	陸 上 競 技	10	25 (31)	35	10	5 (9)	15
	2	水 泳 競 泳 飛 込 水 球 シンクロ	10	0 (0)	57	10	0 (0)	10
			10	17 (5)		10	0 (0)	
			10	30 (0)		10	—	
			10	0 (0)		10	0 (0)	
	3	サ ッ カ ー	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	4	テ ニ ス	10	18 (0)	28	10	6 (0)	16
	5	ボ ー ト	10	35 (19)	45	10	29 (13)	39
	6	ホ ッ ケ ー	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	7	ボ ク シ ン グ	10	0 (0.0)	10	—	—	—
	8	バ レ ー ボ ー ル	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	9	体 操 競 技 新 体 操	10	0 (0)	20	10	0 (0)	20
			10	10 (0)		10	10 (0)	
	10	バスケットボール	10	12.5 (0)	22.5	10	0 (0)	10
	11	レ ス リ ン グ	10	17 (2.5)	27	—	—	—
	12	セ ー リ ン グ	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	13	ウエイトリフティン	10	0 (0)	10	—	—	—
	14	ハ ン ド ボ ー ル	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	15	自 転 車 競 技	10	6.5 (0)	16.5	—	—	—
	16	ソ フ ト テ ニ ス	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	17	卓 球	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	18	軟 式 野 球	10	0 (0)	10	—	—	—
	19	相 撲	10	12.5 (36.5)	22.5	—	—	—
	20	馬 術	10	1 (0)	11	10	1 (0)	11
	21	フ ェ ン シ ン グ	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	22	柔 道	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	23	ソ フ ト ボ ー ル	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	24	バ ド ミ ン ト ン	10	15 (0.0)	25	10	15 (0.0)	25
	25	弓 道	10	0 (39)	10	10	0 (39)	10
	26	ラ イ フ ル 射 撃	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	27	剣 道	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10
	28	ラ グ ビ ー フ ッ ト ボ ー ル	10	0 (0)	10	—	—	—
	29	山 岳	10	0 (36)	10	10	0 (24)	10
	30	カ ヌ ー	10	13 (4)	23	10	2 (4)	12
	31	ア ー チェリ ー	10	0 (15)	10	10	0 (15)	10
	32	空 手 道	10	13.0 (11)	23	10	13 (8)	23
	33	銃 剣 道	10	0 (0)	10	—	—	—
34	ク レ ー 射 撃	10	0 (0)	10	—	—	—	
35	な ぎ な た	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10	
36	ボ ウ リ ン グ	10	0 (0)	10	10	0 (0)	10	
37	ゴ ル フ	10	4 (0)	14	10	1 (0)	11	
小 計			370 (370)	229.5 (198.5)	599.5 (568.5)	280 (280)	82.0 (112.0)	362.0 (392.0)
			4 6 位 (4 7 位)			4 3 位 (4 0 位)		
総 計			400 (400)	229.5 (198.5)	629.5 (598.5)	300 (300)	82.0 (112.0)	382.0 (412.0)
			4 6 位 (4 7 位)			4 2 位 (4 0 位)		

第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」入賞者一覧

- 1 会 期 平成22年9月25日(土)～10月5日(火)
 ※会期前開催 水 泳 9月 8日(水)～9月17日(金)
 ゴルフ 9月21日(火)～9月23日(木)
- 2 会 場 千葉県内一円
- 3 競技数 37競技(鳥取県は29競技出場) ※ 公開競技を除く

競技名	種 別	種 目	順位	競技 得点	個 人・団 体 名 (所 属)	
陸 上	成年男子	110mH	4	5	西澤 真徳 (鳥取県教育委員会)	
		ハンマー投	8	1	赤穂 弘樹 (大阪体育大学)	
		やり投	4	5	高力 裕也 (大阪体育大学)	
	少年男子A	走幅跳	6	3	松浦 憲吾 (境高等学校)	
	少年男子B	3000m	3	6	藤原 匠平 (鳥取城北高校)	
	成年女子	走幅跳	4	5	湊 つばさ (鳥取県教育委員会)	
水 泳	飛 込	成年男子	飛板飛込	6	3	安永 元樹 (日本体育大学)
			高 飛 込	2	7	宮本幸太郎 (鳥取県体育協会)
		少年男子	高 飛 込	2	7	前谷 健佑 (米子南高校)
	水球	少年男子	団 体	3	30	田村 拓 栗田 憲 藤原 駿 秋月 一真 天野 裕人 片山 勇 島田 元輝 深田 隼輔 三原 真人 山根 拓也 中下 拓耶 (鳥取中央育英高校)
テニス	成年男子	団 体	5	12	小山 慶太 (遊ポートTC) 岩見 直哉 (中央大学)	
	成年女子	団 体	7	6	大麻 桃子 (山梨学院大学) 大麻 智尋 (Y. ATT)	
ボ ー ト	成年女子	ダブルスカル	5	12	竹崎 希 藤田 美咲 (東京経済大学)	
	少年男子	シングルスカル	3	6	池口 開 (米子工業高校)	
	少年女子	シングルスカル	4	5	小林 加弥 (鳥取商業高校)	
		ダブルスカル	5	12	松本 愛理 清水保菜美 (米子南高校)	
体操	新体操	少年女子	団 体	7	10	福谷 春奈 濱本 春菜 山本 詩織 田中 清華 砂田 未来 俵野々花 森本なつは (鳥取西高校)
バスケットボール	少年男子	団 体	5	12.5	大阪 力 加藤 慧 伊田 涼司 岡本 貴彦 長谷川 徹 (鳥取東高校) 岡本 聡 竹本 昂生 石亀 光樹 (倉吉東高校) 井上 大樹 (鳥取工業高校) 本多 湧磨 (鳥取中央育英高校) 伊木 祐二 (米子工業高校)	

レスリング	成年男子	フリースタイル 66kg級	5	2.5	角勝 草介 (三和エネルギー)
		グレコローマンスタイル 84kg級	5	2.5	岩間 奨平 (専修大学)
	少年男子	フリースタイル 50kg級	5	2.5	手島 翔平 (鳥取中央育英高校)
		フリースタイル 55kg級	5	2.5	安田 一樹 (鳥取中央育英高校)
		フリースタイル 96kg級	2	7	安田 翔 (鳥取中央育英高校)
自転車競技	少年男子	スプリント	4	5	佐伯 亮輔 (倉吉西高校)
		1kmタイムトライアル	7	1.5	八田 憲 (倉吉西高校)
相撲	少年男子	団 体	5	12.5	網谷 勇志 須藤 火山 中村武蔵士 柴田 直人 中原 将博 木崎 信志 佐々木耕大 (鳥取城北高校)
馬 術	成年女子	ダービー	8	1	山林真由美 (ミネベアモータ)
バドミントン	成年女子	団 体	4	1.5	宮崎 優花 藤原 由衣 (三洋電機CE) 日野由希江 (鳥取県教育委員会)
カヌー	成年男子	フラットウォーターレーシング カナディアンシングル200m	3	6	藤井 功輔 (鳥取県中部ふるさと広域連合消防局)
		フラットウォーターレーシング カナディアンシングル500m	4	5	
	成年女子	スラロームレーシング カヤックシングル25G	8	1	遠藤絵里子 (大津赤十字病院)
		スラロームレーシング カヤックシングル15G	8	1	
空 手 道	成年女子	形	1	8	宇佐美里香 (鳥取県教育委員会)
	少年女子	形	4	5	岩佐 希 (境港総合技術高校)
ゴ ル フ	成年男子	団 体	7	3	小谷 一弘 (三朝カントリー倶楽部) 齋藤 翔太 (東児が丘マリンヒルズゴルフクラブ) 桐谷 龍平 (グリーンパーク大山ゴルフ倶楽部)
	女 子	団 体	8	1	鈴木 愛 (倉吉北高校) 山本 気恵 (米子北斗高校) 鈴木 花奈 (北浜中学校)

【入賞者数】 14競技36種目76人 (昨年は10競技23種目39人)